

成人・老年看護学実習Ⅱ

I 実習目的

成人期・老年期で慢性期にある対象とその家族を理解し、療養の場の特徴を踏まえた生活の再構築や生活と折り合いをつけながら健康障害とともに生きていくためのセルフケア・セルフマネジメントを支援するための基礎的能力を修得する。また、地域で生活する認知症のある高齢者について理解し、病院や施設、地域を含めた継続的な支援体制を考慮しながら、ニーズに応じた援助ができる基礎的能力を修得する

II 実習目標

- 1 成人期・老年期で慢性期にある対象とその家族の特徴を理解する
- 2 慢性期にある対象の顕在・潜在する看護問題をアセスメントし、看護問題を明確化する
- 3 慢性期にある対象の看護問題を解決するための個別的な看護計画を立案し実践する
- 4 生活の再構築やセルフケア・セルフマネジメントを必要とする対象とその家族への看護について考察する
- 5 地域で生活する認知症の高齢者の健康課題を把握し、援助について考察する
- 6 実習を通して倫理的な態度と言動を示す

III 実習構成

- 1 単位と時間数
2単位 (総時間数 90時間)
- 2 実習構成内容・実習場所・実習時間

実習構成内容	実習場所	実習時間
オリエンテーション	新潟県立十日町看護専門学校	2H
慢性期にある対象とその家族の理解と看護	新潟県立十日町病院	72H
地域で生活する認知症の高齢者の理解と看護	認知症高齢者グループホーム	16H

IV 実習内容

実習目標・行動目標	実習内容
<p>1 成人期・老年期で慢性期にある対象とその家族の特徴を理解する</p> <p>(1) 対象の身体的・心理的・社会的特徴を述べる</p> <p>(2) 対象の健康維持に関する情報を収集する</p> <p>(3) 対象とその家族の健康課題に対する受け止め方やキーパーソンに関する情報を収集する</p>	<p>①対象の身体的特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外観、器質的変化・機能的変化、運動能力・体力の変化 ・ 形態的加齢変化、機能的加齢変化 <p>②対象の心理的特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 価値観、信念、生きがい、趣味、信仰、認知機能の変化 <p>③対象の社会的特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職業、住居環境、医療保険、仕事や家庭、地域での役割 <p>④対象の発達課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象の発達段階と発達課題 ・ 発達課題（エリクソン、ハヴィガースト）から対象の生活状況、生活史を捉える <p>⑤対象の健康維持に関する情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象の健康管理方法、生活習慣、生活リズム、嗜好品 ・ 対象の健康リテラシー <p>⑥対象とその家族の健康課題に対する受け止め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象の病気、入院、治療、の受け止め方 ・ 対象の病気、入院、治療についての家族の受け止め方 ・ 対象の家族への思い、家族の対象への思い、家族の健康状態 ・ 家族構成、キーパーソン、介護力、家族機能
<p>2 慢性期にある対象の顕在・潜在する看護問題をアセスメントし、看護問題を明確化する</p> <p>(1) 健康障害が対象の身体的・心理的・社会的側面に及ぼす影響を述べる</p> <p>(2) 健康障害が対象の日常生活に及ぼす影響を述べる</p> <p>(3) 生活の再構築や健康障害と共に生きていくためのセルフケア・セルフマネジメントに対する対象や家族の適応状態や心身の苦痛を述べる</p> <p>(4) 対象の健康問題に対する個別性や強みを述べる</p> <p>(5) 全体像から看護問題をあげ、患者の看護の方向性を説明する</p> <p>(6) 合併症の出現、日常生活の変化、セルフケア・セルフマネジメントの観点から優先される看護問題を決定する</p> <p>(7) 対象の看護問題を明確化し、対象への援助の必要性を述べる</p>	<p>①ゴードンの機能的健康パターンを用いた情報収集</p> <p>②収集した情報の分類・整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主観的情報／客観的情報／個別性／必要な情報の整理 <p>③対象の健康状態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象に生じている健康障害、機能障害 <p>④健康障害に伴う病態生理や機能障害のメカニズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 診断名、既往歴、現在の症状、初期症状からの経過、検査、治療、処置の内容、病態生理 ・ 加齢に伴う変化と病態の関係 ・ 生命や生活に影響を及ぼす病態、増悪因子 ・ 予測される合併症、二次的障害 <p>⑤健康障害による対象の身体的・心理的・社会的側面への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 疾病、障害、症状、検査、治療、処置、入院など ・ 対象の入院前後の心理的・社会的側面の変化 ・ 対象の入院前後の役割の変化

	<ul style="list-style-type: none"> ⑥日常生活に及ぼす影響 <ul style="list-style-type: none"> ・対象の入院前後の日常生活の変化、自立度の変化 ・対象の療養の場を想定した役割や日常生活の変化 ⑦生活の再構築やセルフケア・セルフマネジメントに対する情報 <ul style="list-style-type: none"> ・療養の場の特徴 ・対象の思い、理解度、強み、適応状態、自己効力感 ・家族の思い、キーパーソン、協力度、介護力 ・対象・家族に必要な職種や医療チーム、社会資源 ⑧対象の個別性と強み <ul style="list-style-type: none"> ・性格、才能や技能、関心・願望、自己効力感 ・家族との関係、家族の協力度 ・経済状況、住環境（療養の場、周辺地域） ・地域社会とのつながり、活用している社会資源 ⑨全体像の図式化 <ul style="list-style-type: none"> ・情報の統合、関連づけ、解釈・分析 ⑩看護の方向性の明確化 <ul style="list-style-type: none"> ・患者の状態の分析 ・対象の生活への支障（可能性） ・回復を促進するうえで支障となること ・看護として必要な介入 ⑪抽出した看護問題は、対象にとって重要なものになっているか <ul style="list-style-type: none"> ・予測される日常生活の変化 ・セルフマネジメントの必要性 ・対象のセルフケア能力、セルフマネジメント能力 ⑫必要な情報の整理 ⑬問題の原因・誘因の追究 ⑭問題に介入しないときの成りゆき ⑮対象の対処能力 <ul style="list-style-type: none"> ・対象の体力、意思力、知識、対象の強み、加齢 ・対象のセルフケア能力、セルフマネジメント能力 ・自己効力感、意欲、行動変容ステージモデル ⑯対象への援助の必要性 <ul style="list-style-type: none"> ・対象にとっての望ましい状態 ・対象の療養の場の特徴 ・対象の療養の場での日常生活、役割 ・援助の方向性 ⑰看護問題の抽出
<p>3 慢性期にある対象の看護問題を解決するための個別的な看護計画を立案し実践する</p> <p>(1) 対象の個別性を考慮した達成可能で具体的な看護目標を表現する</p> <p>(2) 対象の強みを活かした具体策を具体的に表現する</p> <p>(3) 援助を実施するにあたり、その日の対象の状況に応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①RUMBAの法則に基づいた看護目標 ②対象の個別性に合わせた具体策 <ul style="list-style-type: none"> ・対象の個別性、強み、安全性、安楽生、自立性 ・具体的かつ実践可能な計画立案 ・観察計画、ケア（援助）計画、教育計画 ・対象の体力、意思力、知識、対象の強み

<p>じた援助内容について述べる</p> <p>(4) 退院後の生活を踏まえ、対象の強みを引き出し自尊感情に配慮した援助を実施する</p> <p>(5) 対象の症状・状態を観察しながら安全・安楽に配慮した援助を実施する</p> <p>(6) 対象と家族の思いや価値観・信念および人格を考慮した援助を実施する</p> <p>(7) 実施した援助について対象とその家族の反応を踏まえて自己の援助を評価する</p> <p>(8) 立案した看護計画を客観的に評価する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対象のセルフケア能力、セルフマネジメント能力 ・自己効力感、意欲、行動変容ステージモデル ・エンパワメント <p>③その日の対象の状況に合わせた援助内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象の状態の観察（バイタルサイン、症状悪化の有無、言動や表情、訴え、態度、反応、対象の回復への気持ちと希望、） ・キーパーソンの把握、家族や周囲の人との協力体制 ・対象の状況に合わせた必要物品と環境の整備 <p>④対象・家族への援助内容の説明と同意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象、家族の反応、理解度 <p>⑤対象・家族への援助の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象の安静度、ADL、自立度 ・対象・家族の知識、理解度、手技 ・対象のライフスタイル、セルフケア能力、個別性強み、自己効力感 ・加齢変化・障害に応じたコミュニケーション <p>⑥意思決定への支援</p> <p>⑦対象の自尊感情、価値観、プライバシーへの配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動変容ステージモデルに応じた援助方法の選択 <p>⑧対象の身体状況の理解・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併症の徴候、程度 ・病状悪化、合併症予防のための援助 ・援助の際のバイタルサイン、対象の表情、訴えの観察 ・対象にとっての安全・安楽の理解 ・残存機能の維持 <p>⑨対象へ実施した援助の評価・修正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・援助実施前・中・後の対象とその家族の反応 ・援助実施後の対象や家族の理解度 ・対象の状態に合わせた看護計画の修正 <p>⑩立案した看護計画の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護実践の評価（目標・方法・達成度等） ・療養の場への適応 ・継続性の評価
<p>4 生活の再構築やセルフケア・セルフマネジメントを必要とする対象とその家族への看護について考察する</p> <p>(1) 対象の自立・自律した生活の再構築や生涯にわたるセルフケア・セルフマネジメントを目指すために必要な社会資源について説明する</p> <p>(2) 実習中の経験に基づき、対象がその人らしい生活を送れるための看護について自己の考えをわかりやすく述べる</p>	<p>①対象の健康維持に必要な社会資源</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健医療福祉制度 ・フォーマル、インフォーマルな社会資源 ・サポートグループ、セルフヘルプグループのサービス ・社会参加を促す要素と阻害要因 ・対象の保健医療福祉チームの中での看護師の役割 <p>②対象のセルフケアやセルフマネジメントを支援するための看護の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象とその家族の意思決定を支える援助

	<ul style="list-style-type: none"> ・病気の受容と病気とともに生きることを支える援助 ・セルフケア・セルフマネジメントを促す継続的支援 ・多職種や医療チームとの連携、情報交換、カンファレンス
<p>5 地域で生活する認知症の高齢者の健康課題を把握し、援助について考察する</p> <p>(1) 認知症のある高齢者の生活を支える社会資源について説明する</p> <p>(2) グループホームとそこで生活する認知症高齢者の特徴について説明する</p> <p>(3) 認知症のある高齢者の強みや思いを尊重したレクリエーションを計画し実施する</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①認知症のある人の理解 ②認知症のある人のケア ③認知症のある人とのコミュニケーション方法 ④認知機能および生活機能の評価 ⑤施設における入居者の健康管理 ⑥施設における医療処置 ⑦施設における緊急時対応 ⑧介護保険制度における認知症対応型共同生活介護(グループホーム)の位置づけ ⑨グループホームに入居される人の特徴 ⑩高齢者のストレングスモデルを活用したレクリエーション
<p>6 実習を通して倫理的な態度と言動を示す</p> <p>(1) 他者からの意見や助言を受け止め、自己の態度と言動を示す</p> <p>(2) 自己の課題解決に向けた学習に対する姿勢を示す</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①看護職の倫理綱領 <ul style="list-style-type: none"> ・ 守秘義務、個人情報の取り扱い ・ 実習記録の扱いおよび提出期限の遵守 ②身だしなみを整える ③教員、スタッフ、グループメンバーへの挨拶 ④教員、スタッフ、患者とのコミュニケーション ⑤報告・連絡・相談 ⑥相手に対する思いやり、配慮、言動 <ul style="list-style-type: none"> ・ メンバーシップ ・ アサーティブな行動 ⑦意見や助言を謙虚に聴く姿勢 ⑧カンファレンスに臨む姿勢 ⑩自己の行動の客観的な振り返り ⑫主体的な学習、追加学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習した知識の活用 ⑬心身の健康管理

V 実習配置

別紙参照

VI 実習方法

<病院>

- 1 成人期・老年期にある患者（原則として慢性疾患をもち日常生活において自己管理が必要な対象）を受け持ち実習する
- 2 看護過程の展開、看護の実践、評価をする

<認知症対応型共同生活介護(グループホーム)>

- 1 スタッフの指導のもと、実習を行う
- 2 入居者とのコミュニケーション
- 3 日常生活援助（食事・入浴・排泄・活動等）の見学・援助
- 4 実習最終日にカンファレンスを計画し各自の学びについて報告し意見交換する

VII 実習記録

- 1 実習評価表（成人・老年Ⅱ 様式1）
- 2 学修成果レポート（成人・老年Ⅱ 様式2）
- 3 アセスメントシートⅠ（共通 様式A）
- 4 全体像（共通様式B）
- 5 アセスメントシートⅡ（共通 様式C）
- 6 看護計画シート（共通 様式D）
- 7 看護の評価（共通 様式E）
- 8 毎日の実習記録 看護計画立案前（共通 様式F-①）
- 9 毎日の実習記録 看護計画立案後（共通 様式F-②）
- 10 グループホーム実習における援助計画と実践記録（成人・老年Ⅱ 様式3）
- 11 グループホーム実習における学習成果のレポート（成人・老年Ⅱ 様式4）
- 12 事前学習・追加学習

VIII 実習評価

最終評価は、評価基準に基づき担当教員が評価する